

4月20日(土)  
～30日(火)

# 春の全道火災予防運動 が実施されます

問 松前消防署管理課指導係  
☎42-2119

この運動は、火災が発生しやすい時季を迎えるにあたり、火災の予防思想の一層の普及を図り、火災の発生を防止しようとするものです。特に住宅火災では、高齢者を中心とする犠牲者が約7割と増えていきますので、火災による高齢者の死傷者を大幅に減少させることを目指しています。

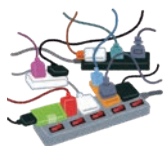


身近なところに  
電気火災！

近年、電気製品が原因の住宅火災が増加し、死者数も増加傾向となっています。電気製品の使用方法や清掃状況を確認しましょう。

## ■8つの確認ポイント

- ①コードが家具などの下敷きになっていないか。
- ②コードを束ねない。
- ③プラグを確実にコンセントに差し込む。
- ④プラグの埃を掃除する。
- ⑤たこ足配線をしない。
- ⑥照明器具に衣類やタオルを被せない。
- ⑦使用しない電気製品のプラグを抜く。
- ⑧異常が見られるリチウムイオン電池は使用しない。



春は空気が乾燥し、風の強い日が多く、火災が発生すると被害が大きくなります。また、畑で枯草などを燃やし、火の不始末などにより野火や林野火災に発展する事例があります。畑で出た枯草などは、家に持ち帰り廃棄しましょう。



## ■屋外の火災に注意



地震火災対策  
できていますか？

大規模な地震が発生した時には、多くの場所で火災が発生する恐れがあり、大規模な火災につながる危険性が高くなります。

## ■大規模火災の原因

災害時の火災は、過半数が電気に起因したもので、長時間に及ぶ停電から復旧後の再通電時に出火する「通電火災」が原因の一つだとされています。

通電火災は、震災時だけではなく、自然災害時の発生も懸念されています。通電火災を防ぐための対策を確認しましょう。

## 地震時の 通電火災にご注意



## 事前の対策

### ■日頃から

- ①住宅の耐震性を確保する。
- ②家具などの固定を行う。
- ③感震ブレーカーを設置する。
- ④暖房機器の周辺に可燃物を置かない。
- ⑤消火器などを設置し、使用方法を確認する。
- ⑥住宅用火災警報器を設置する。
- ⑦地震直後の対策(⑪～⑬)を玄関などに表示し、避難時に確認できるようにする。
- ⑧自分の地域での地震火災による影響を把握する。
- ⑨消防団や自主防災組織などに参加する。
- ⑩地域防災訓練へ参加するなど、対応要領を学ぶ。

## 災害時の対策

### ■地震直後

- ⑪停電した場合は、電気製品のスイッチを切り、プラグを抜く。
- ⑫暖房機器からの油漏れがないかを確認する。
- ⑬避難時はブレーカーを落とす。
- ⑭ガス機器、電気製品、石油器具に破損がないか、近くに可燃物がないかを確認する。
- ⑮電気やガスが復旧したら電気製品に異常がないかを確認する。